



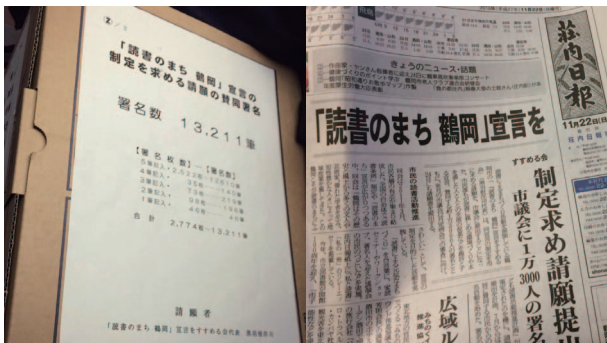
鶴岡市議会議員〔無会派・市民文教常任委員会〕

田中ひろし 市政報告

2016
FEB.

<連絡先> 事務所 〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール：officefon@gmail.com
TEL 0235-22-0068 FAX 0235-22-0098
議会事務局 〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所 2階
TEL 0235-25-2111 FAX 0235-24-9071

写真は、同時に提出された署名の段ボール箱。鶴岡市民の1割にあたる13211筆もの署名には重みがあります。



2015年12月定例会の市民文教常任委員会において【「読書のまち鶴岡」宣言】を求める請願の審査が行われ、「閉会中の継続審査」となりました。閉会中の継続審査とは、今回の審査では結論に至らなかったため、次回の3月定例会に持ち越すこと。採択でも不採択でもありません。

僕は加藤太一議員とともに紹介議員として、各委員からの質問に答えていきました。

- ・「子ども読書活動推進計画」がこの3月に策定されたばかり。この計画の実施を優先すべきではないか
- ・大量の署名が提出されていることを、過剰に評価するのはいかがなものか
- ・「スポーツのまち」「音楽のまち」などの宣言を求める声が上がってきた場合、どう対応するのか…など。質疑応答は40分以上に及びました。

僕が答弁で主張した内容は次の通りです。

- ★「子ども読書活動推進計画」はあくまでも0歳から概ね18歳の子どもを対象にした計画。今回の請願は子どもを含んだ全ての年齢層の読

「読書のまち鶴岡」を目指して

書振興を願っているもので、「子ども読書活動推進計画」の実施を力強く後押しするものである。

★今回の請願は決して急ごしらせではなく、2011年から着実に積み重ねられた読書振興の取り組みの成果である。

★署名については、13211筆（鶴岡市の人口の約1割!）という数だけでなく、幅広い世代と分野の市民から賛同を得ていることに重みがある。

★請願者は条例による制定という形にこだわっているわけではなく、読書を土台としたまちづくりを実現することが趣旨である。都市宣言の形式については、柔軟に議論していけば良いのではないかと。



鶴岡市は2011年に【平和都市宣言】をしています。その制定には4年もかかりました。「読書のまち」についても、今回継続審査になったことで、宣言へのスタートラインに立ったと言えるかも知れません。僕も志を同じくする者の一人として、【「読書のまち鶴岡」宣言】を目指して共に歩んでいく決意です。

【今号目次】

- ・「読書のまち鶴岡」を目指して
- ・12月定例会一般質問報告
- ・視察報告～静岡県富士市

定例会報告

平成27年12月定例会を振り返ります。

なお、鶴岡市議会ホームページから、本会議の映像や会議録をご覧ください。

→ <http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/gikai/>

平成27年12月定例会・一般質問

◆テーマ

1. 安心して出産できる
環境づくりについて
2. 新文化会館の管理運営について
 - (1) 管理運営実施計画について
 - (2) 開館記念公演について
3. 「読書のまち鶴岡」について

1. 安心して出産できる 環境づくりについて

全国の医師へのアンケート調査によると、山形県で「産婦人科医は不足」と感じている医師は約7割で全国ワースト9位。

本市での出産の現状は、市内の産婦人科の1つが来年3月で出産取扱を終了する影響は。市外からの出産の受け入れへの対応は。国からの補助金を受けての「妊婦サポート事業」の実績と効果は。里帰り出産を機会に子育てしやすい鶴岡をアピールし、移住定住促進につなげていきたい。

◎健康福祉部長の答弁

本市では、妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない総合的な少子化対策を進めている。

市内には出産を扱う医療機関が5ヶ所、近隣市町に2ヶ所ある。平成26年度の市内の妊婦数は901人。開業医440人、民間病院342人、荘内病院86人、日本海病院など市外の病院が33人。酒田市、三川町、庄内町、遊佐町の妊婦数は970人。そのうち4割＝357人が本市の産科医療機関に通院している。妊娠届け出件数の推移は、平成22年度が1,014件だったのに対し、26年度は901件で減少傾向にある。

来年3月で分娩を扱わなくなる医療機関で受診している4月以降出産予定の妊婦は既に転院先が決まっている。荘内病院はNICU、GCUを備

えた周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊婦の受け入れなどに力を入れているが、健康な妊婦の方の受け入れを増やすことも可能である。酒田の日本海病院は産婦人科医6名が配置され、出産受け入れ拡大の意向がある。

今すぐに出産受け入れ先が不足する恐れはないが、中長期的な産科医不足は、庄内地域全体の二次医療圏として検討すべき課題である。

本市では、育児不安が最も高まる出産後2カ月までの産褥期に、育児不安の軽減と産後鬱病の予防を目的に、保健師・看護師が全ての赤ちゃんに家庭訪問を行っている。妊娠届け出時アンケートから、妊娠初期から既に出産や子育てについて強い不安を抱いている状況が明らかになったため、平成26年度から妊婦サポート事業を開始した。妊娠初期から家庭訪問を開始し、不安や悩みの相談に答えながら、新生児の赤ちゃん人形を使いながらだっこやおむつ交換などの模擬体験をしながら、子育てのイメージを膨らませるような個別学習を行なうもの。26年度は11人の妊婦の方に延べ28回実施し、「不安が軽くなった」「育児に自信が持てそうだ」などの感想を得ている。

里帰り出産について、まとまったデータはない。

2. 新文化会館の管理運営について

新文化会館については、先日行なわれた改築工事現場の見学会も盛況で、市民の期待が高まっている。

管理運営実施計画のパブリックコメントの結果は。開館記念公演の現状と見通しは。

◎教育長の答弁

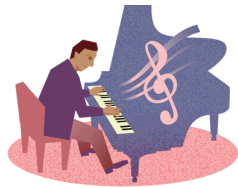
管理運営実施計画とは、平成26年3月策定の「管理運営計画」に基づき、事業計画や施設運営など、より具体的な指針となる計画。全国各地での劇場づくりの経験が豊富な専門家と地元の有識者5名で構成される管理運営実施計画アドバイザー会議を昨年11月から1年間で5回実施した。多くの市民が参加したワークショップも今年1月から2回開催し、そこで出された意見も参考に作成した計画案をアドバイザー会議に諮ってきた。パブリックコメントは11月9日から3週間実施し、各地域庁舎やアートフォーラム、中央公民館でも閲覧可能にした。

事業計画について4件、施設運営が5件、運営主体組織が5件、市民の参加や協力が2件、収支計画が3件、計画全般に関するものが2件、合計21件の意見があった。現場見学会には小学生から年配の方まで多くの市民の参加があった。

新文化会館は平成29年8月末の竣工を目指し、工事も予定通り概ね順調に進んでおり、平成29年秋以降、ホールが使用可能になる見込だ。

開館から約1年間をオープニングイヤーと位置づけ、多様な公演や催事を実施する予定だ。市民ワークショップでの意見やアイデアも参考に、生音を重視したホールの特性や設備機能の充実により、フルオーケストラによるクラシックコンサート、プロによるオペラ公演、トップアーティストの公演、プロの劇団によるミュージカル公演や歌舞伎公演などの大規模公演も実施していきたい。市民参加型の公演を予定しているほか、鶴岡市ゆかりの出演者による公演や、市民ワークショップでも意見をいただいたお笑い芸人等による喜劇公演を計画していきたい。

開館記念公演では、招聘型や市民参加型など様々な形態の事業をバランスよく展開しつつ、幅広いジャンルの公演を行うことで、文化会館に関心がなかった市民も来ていただくよう努めたい。



3. 子ども読書活動推進計画について

2010年3月の一般質問で策定を求めた「鶴岡市子ども読書活動推進計画」が、鶴岡市立図書館100周年の2015年3月に策定。「絵に描いた餅」にならないよう、実施状況をチェックしていきます。



策定から8カ月が経過した。これまでの実施状況と来年度への方針は。

◎教育長

市の関係部局4課が事務局となり、10名の子ども読書活動推進委員会委員を中心に約8カ月をかけて策定したもの。

子どもが読書に親しめるよう社会全体が連携・協力すること、子どもが読書に親しむ環境の充実、社会全体の機運を高めていくことなどを基本方針に合計52事業を掲げている。新規事業として、図書館内に若い時期に触れることが重要と思われる本を集めたヤングアダルトコーナーを設置した。

保育園、幼稚園、小学校・中学校・高校、放課後児童クラブやコミセン等の183施設と、読書推進活動12グループに、子どもの読書活動推進に関する調査を行なった。

28年度は調査結果を生かして、きめ細かな支援策を進めていく。

つるおか市議会だより
平成27年12月定例会号



田中 宏
議員

安心して出産できる環境づくりは

議員 本市の出産の状況と産科医療機関が減少する影響は。

健康福祉部長 平成26年度は本市の妊婦901人の95%以上が市内で出産し、庄内他市町の妊婦970人の約4割、357人が本市の産科医に通院している。

28年3月で市内の分娩を扱う医療機関が1か所減ることでの差し迫った影響はないが、産科医の不足は二次医療圏として庄内地域全体の課題と捉えている。

新文化会館の開館記念公演は

議員 記念公演の検討状況は。

教育長 開館から1年間をオープニングイヤーと位置づけ、オペラやミュージカル、歌舞伎等の大規模公演のほか、市民参加型の公演、お笑い芸人による喜劇など多様な公演や催事を実施し、より多くの市民が足を運ぶ機会にしたいと考えている。



新文化会館ホール イメージ図

子ども読書推進の現状は

議員 子ども読書活動推進計画の実施状況と今後の方針は。

教育長 図書館にヤングアダルトコーナーを新設し、読書環境の整備を図ったほか、小・中学校や放課後児童クラブ等183か所と12の読書推進活動団体の調査を行い、課題や必要な支援などを情報共有した。来年度、調査結果を生かしてきめ細かな支援策を進めていきたい。

視察報告 ～静岡県富士市

- 日時：2016年1月25日
- 訪問先：静岡県富士市
- 視察テーマ：防災
- 視察対応者：
総務部防災危機管理課 課長＝笠井洋一郎 氏
- 視察団：会派視察（無所属：田中宏1名）

富士市は人口257215人、面積244.95平方km。富士山の南麓に広がる街である。

- ・2007年7月、2014年10月には台風による大雨被害、2008年7月にはゲリラ豪雨による被害。
- ・2013年、静岡県が第4次地震被害想定を発表。富



士市では【レベル1】死者30人、重軽傷1700人、建物全壊2250棟【レベル2】死者140人、重軽傷2860人、建物全壊6180棟の2パターンを想定。

- ・防災と消防の連携強化のため、消防防災庁舎に防災危機管理課のほか、道路維持河川課も入っている。

【富士市災害情報共有システム】

2014年度、各避難所において、避難者情報および住民の安否情報をパソコンで管理し、インターネット経由などで災害対策本部に集約し、市のウェブサイトにて即時公開する「避難所・避難者管理システム」を整備。2015年度には、避難行動要支援者の避難状況を把握し、福祉避難所の開設判断や移動の優先順位の判断のため「要援護者支援システム」と連携する。

【コミュニティFM】

2005年、富士市、富士宮市、富士信用金庫などの出資で株式会社として設立。富士市と防災協定を結んでおり、週3枠が市の提供番組。消防防災庁舎にもスタジオがある。（上記の写真参照）

【防災訓練】

- ・4月に実施する市職員動員訓練は、抜き打ちでメールする。26年度は対象1822人中、93.8%にあたる1709人が参集。
- ・6月、土砂災害防災訓練
- ・9月、富士市総合防災訓練。540団体、81235人が参加。

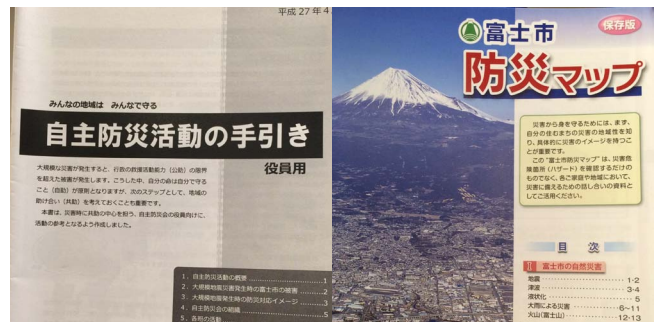
- ・11月、防災啓発イベント「ふじBousai」
- ・12月、富士市地域防災訓練。358団体、48178人が参加。朝8時に同報無線で災害想定を放送する。
- ・1月、災害ボランティア訓練
- ・3月、津波対策訓練

【ふじBousai】

2014年から実施している、子どもから大人まで楽しみながら防災・減災について学べる啓発イベント。自然災害の「見える化」を目指す＜知識エリア＞や、地震体験や自衛隊によるカレーの無料配布などを行なう＜体験エリア＞など。

【防災マップ】

災害危険箇所を確認するハザードマップとしての機能だけでなく、富士市の自然災害の現状や危険性、防災・減災対策、災害図上訓練DIGの概要、非常用持ち出し品リストなど、46ページに及ぶ。



【災害図上訓練「DIG」】

DIG「ディグ」とは常葉大学の小村隆史准教授が考案した災害図上訓練で、日本における参加型防災ワークショップの事実上の標準形となっている。市内自主防災会などに対して毎月1回DIGセミナーを実施。市民による災害に強いまちづくりを促進している。2015年度は8回の実施で250名以上が参加。

<所感>

- ・46ページに及ぶ「防災マップ」の、防災危機管理課の手づくりとは思えぬ充実ぶりに感服！
- ・さまざまな形の防災訓練を通して、市職員や市民の防災意識を高めていく努力に見習いたい。
- ・鶴岡市の総合防災訓練にも【ふじBousai】のように、「子どもから大人まで」「楽しみながら」学べる要素を盛り込むべきだと感じました。

ブログ ツイッター フェイスブック
BLOG / twitter / Facebook での情報発信も！

<http://tanaka-tsuruoka.net/>
http://twitter.com/tanaka_hiroshi
<http://www.facebook.com/tanaka.officefon>